

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

宮城県栗原市 栗原市立栗原中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	対象	ド訓	救臨感災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
67,117	22,277	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

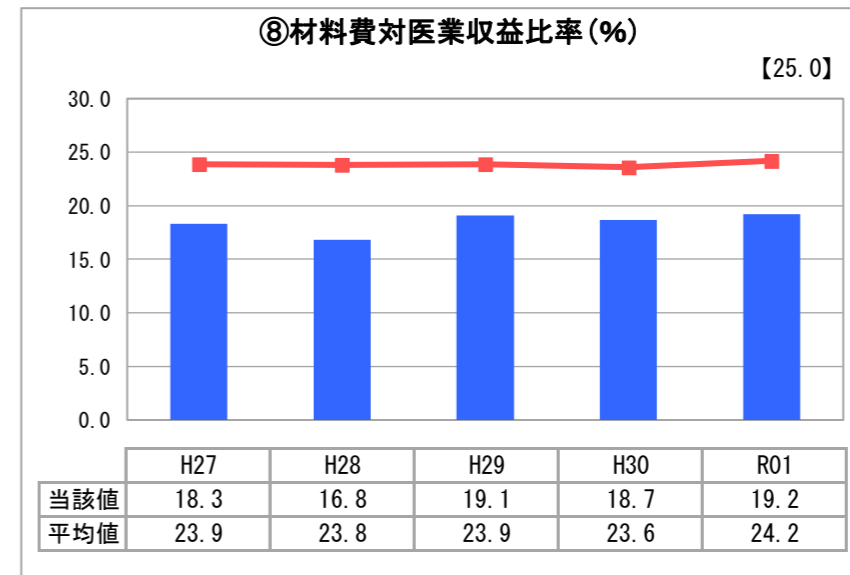
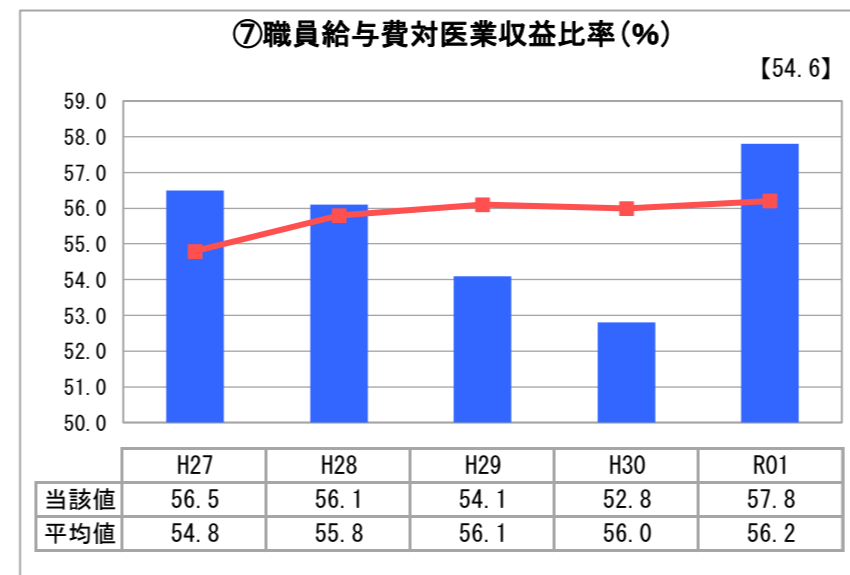
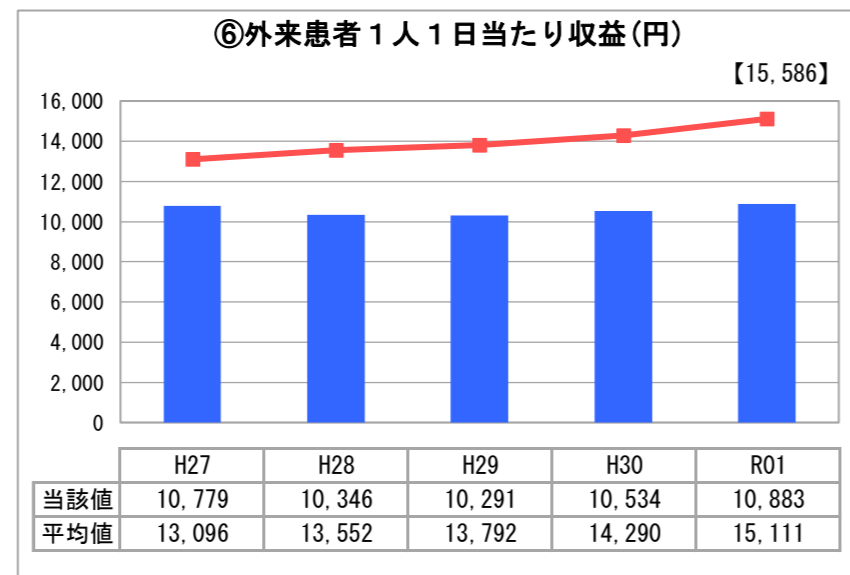
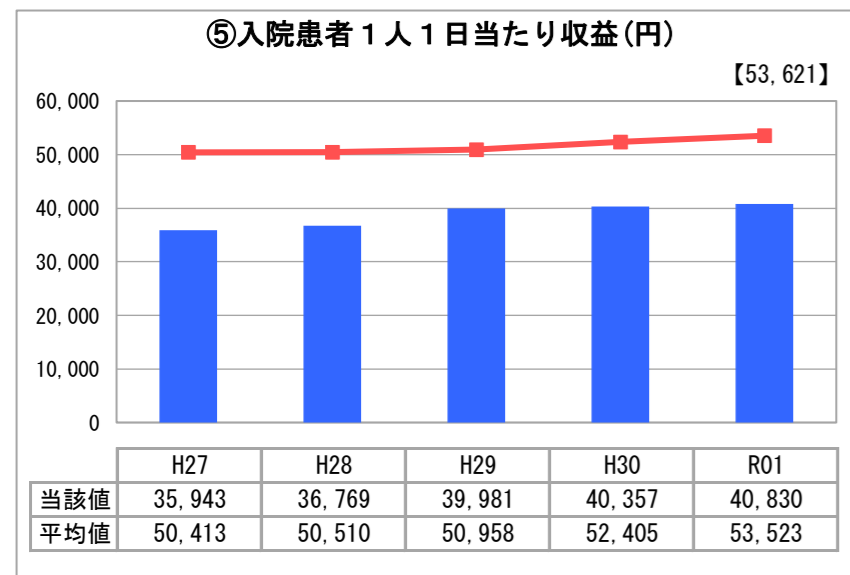
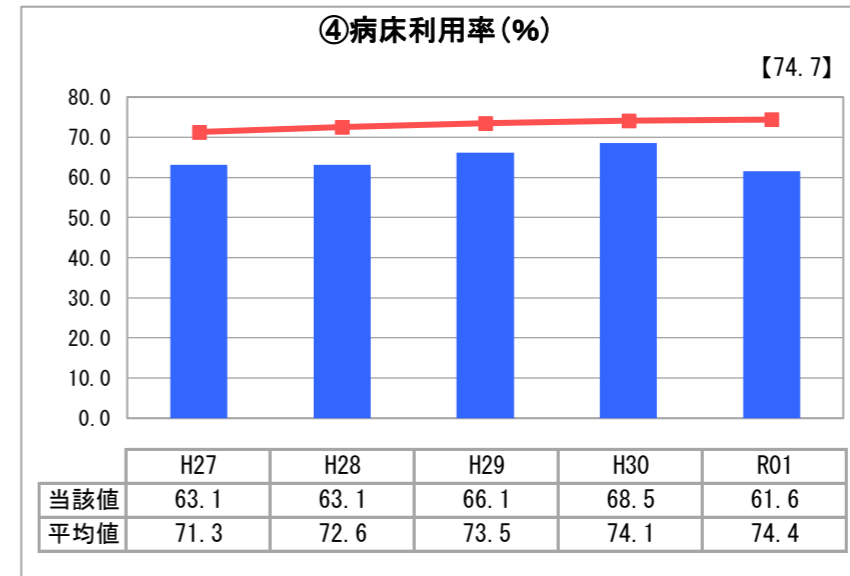
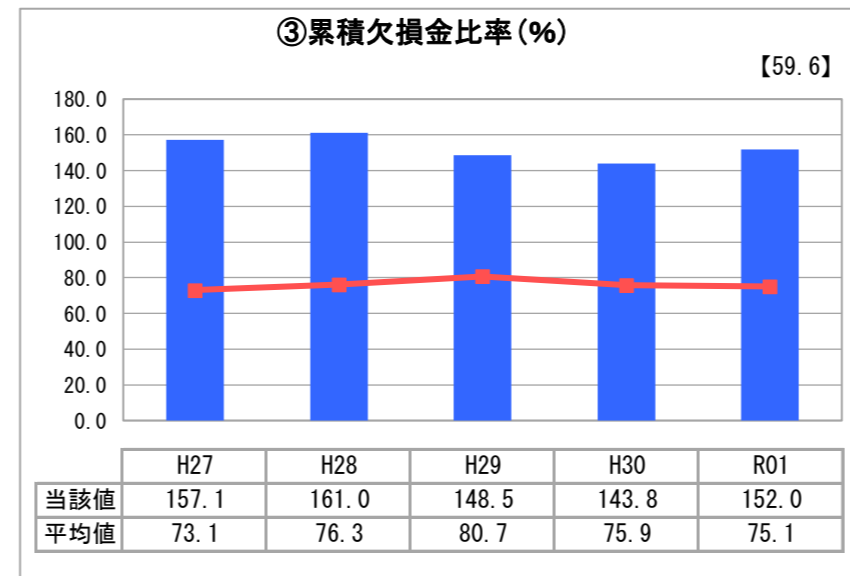
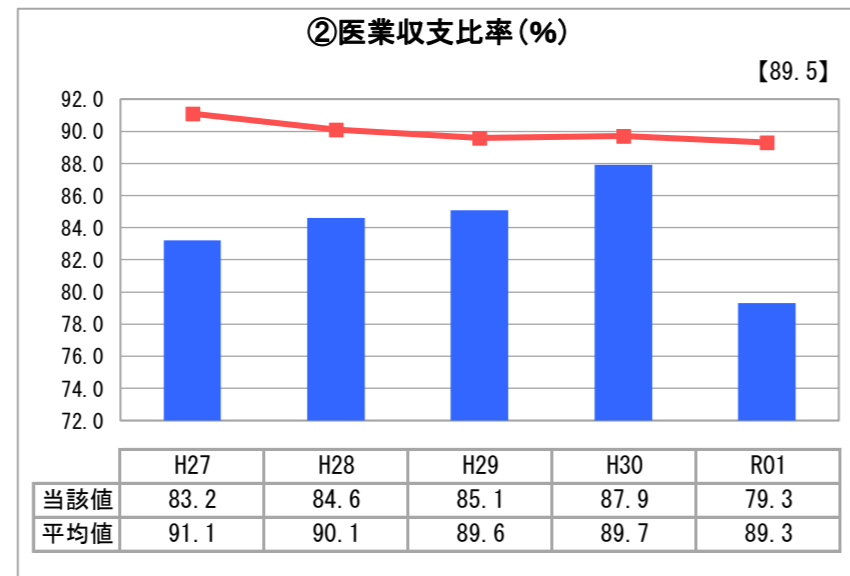
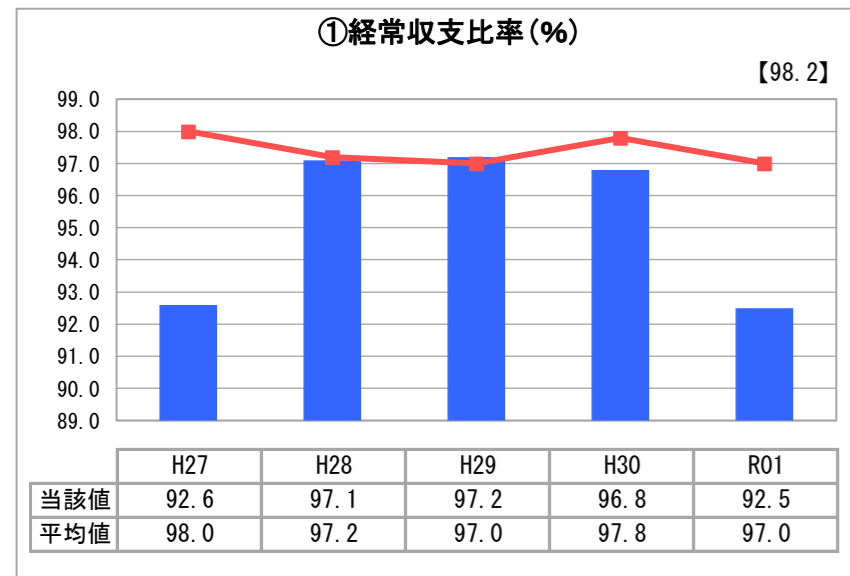
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
250	50	28
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	1	329
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
217	40	257

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## 1. 経営の健全性・効率性



## I 地域において担っている役割

- ・地域の中核病院として高度医療及び二次救急医療
- ・急性期医療を中心に、小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療
- ・災害拠点病院
- ・基幹型臨床研修指定病院
- ・第二種感染症指定医療機関

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は92.5%となり、前年度より大幅に悪化した。コロナ禍や暖冬などの影響により、医業収支比率が前年度比で8.6ポイント減少したことが大きな要因となっている。

病床利用率は前年度まで右肩上がりで推移してきたが、H31.4から結核専用病床である感染制御センター29床の運用を始めたこともあり、前年度より6.9ポイント減少した。

経営健全化のためには医業収支を改善する必要がある。そのためには全国平均の同規模病院より約20人少ない常勤医師不足を解消していくことが先決である。

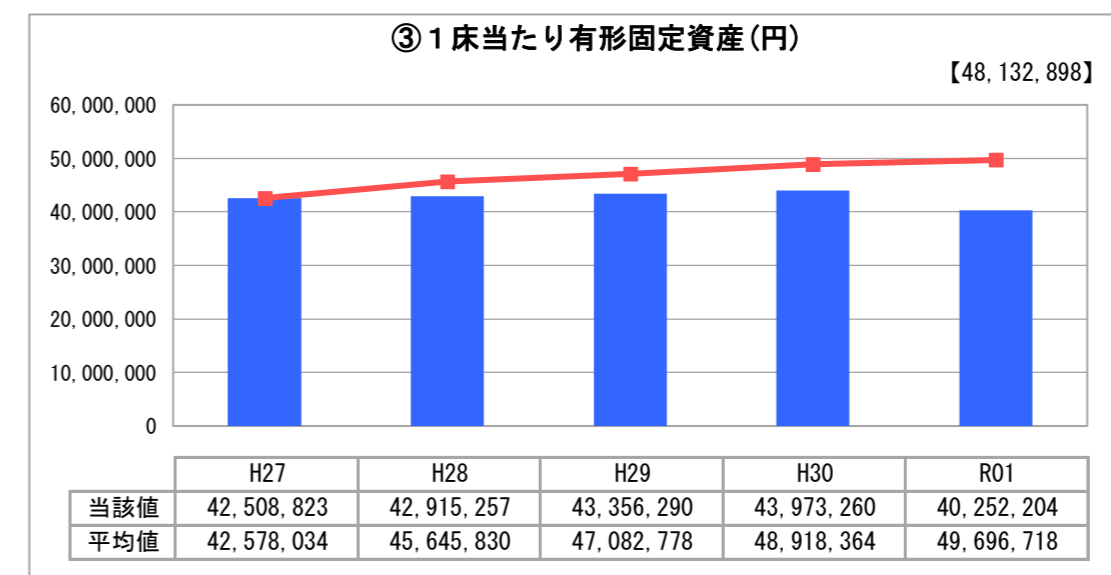
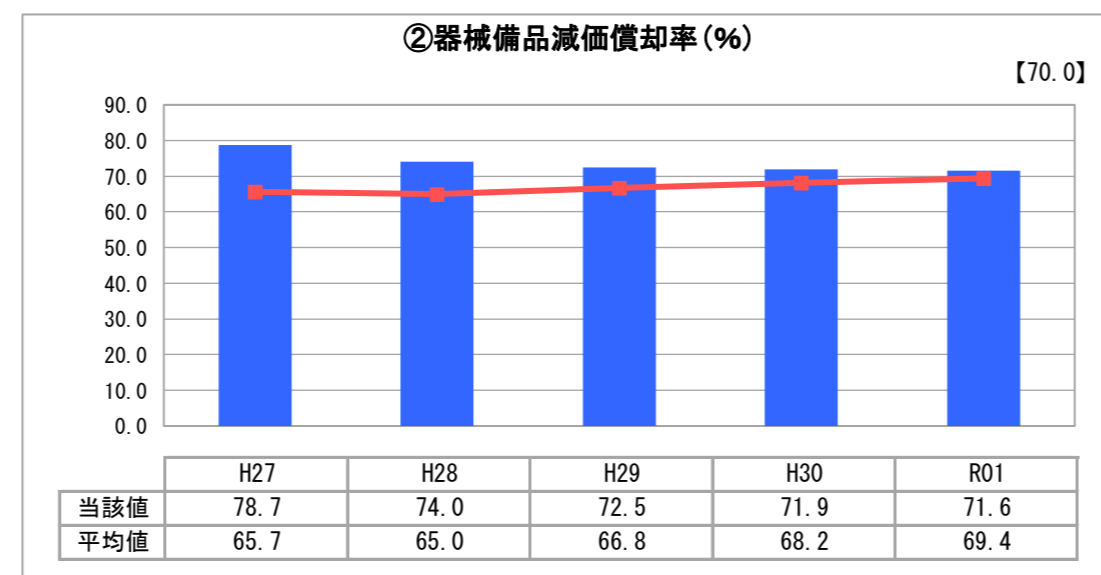
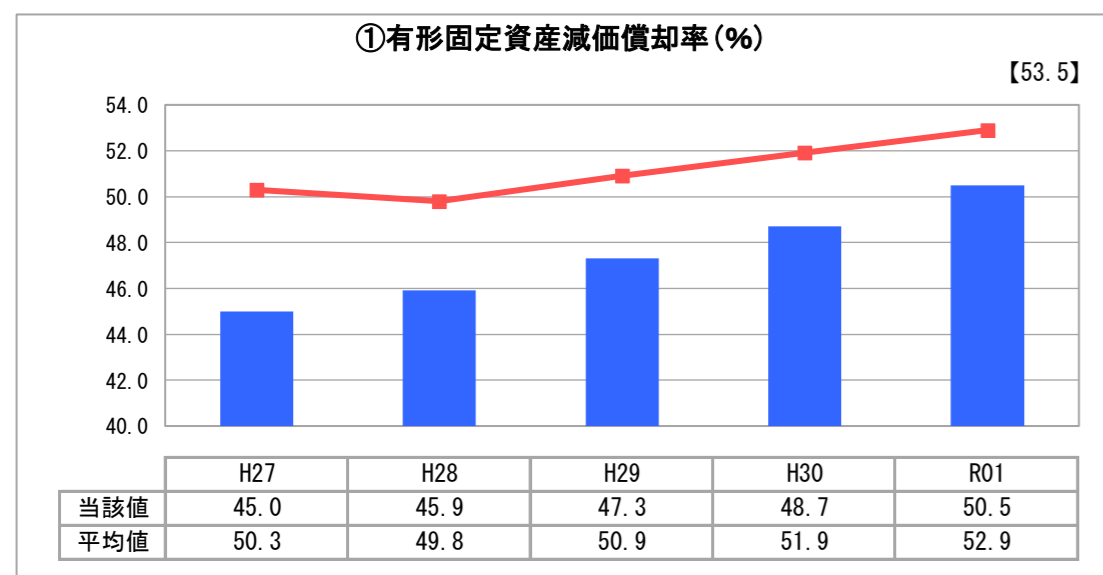
材料費比率は平均値を下回っているものの、今後も引き続き材料費の抑制を図る必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

開院より17年経過し、医療機器や給水・給湯設備や冷暖房設備等の老朽化が目立ってきている。

個別の故障については、その都度修繕により対応しているが、今後は計画的な医療機器や設備の更新を行っていく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

常勤医師不足の解消による収入増を図るほか、医療機器購入費や診療材料購入費、業務委託費等の適正化に努めるとともに、令和4年4月を目標とした療養病床50床の廃止による事業規模の見直しによる、一層の経営改善を図っていく。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。